

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 23

学校名・団体名	八王子市立下柚木小学校
HPアドレス	http://hachioji-school.ed.jp/syuge/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	ICT 活用で子供と地域を共に育て郷土愛を育む作品展
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>ICT を活用することで、児童の作品を中心にあらゆる来場者が共に楽しめる作品展を目指す。</p> <p>そして作品展が、児童の豊かな感性を育み、造形への意欲を喚起するとともに、郷土愛を育み、児童の愛校心を育て、地域と学校をつなぐ機会にする。</p>	

<活動・研究報告>

八王子市立下柚木小学校は、多摩ニュータウンに位置する開校23年目の全校児童291名、12学級の学校である。

開校以来隔年で図画工作科（以下 図工とする）の作品を中心に展示する「作品展」を開催している。PTA組織は無いが、PTA組織に代わるものとしての学校運営協議会の支援により、徐々に地域力が高まりつつあるところである。

平成29年度は「八王子市制100周年記念作品展」を開催した。この作品展は、自分たちの住む町の歴史や伝統を学び、「ふるさと八王子」への郷土愛を育むとともに、下柚木の地域を育て、地域と学校をつなぐきっかけひとつとなった。テーマをHEART de ART ハートでアート「100年の彩りを次の100年の輝きへ」とし、子供たちの心の表現、心を育てる表現を展示した。具体的には、八王子市制100周年に絡めた共同製作を全校および各学年で製作・展示する。大人も子供も一緒に遊べる参加型展示のRICOH紙アプリ、AR（株式会社リコー）のClickablePaperを使って学校出入りのカメラマンが撮影・編集した動画による作品紹介など、ICTを活用した。さらにランプシェードの光やプロジェクションマッピングなど、「光のファンタジータイム」の取組も行った。

日時

11月17日（金） 児童鑑賞（8：45～15：15）保護者一般鑑賞（15：15～18：00）
11月18日（土） たてわりアート集会（8：30～10：20）保護者一般鑑賞（10：20～18：00）
光のファンタジータイム 17, 18日両日とも（17：00～17：20）

会場 下柚木小体育館

展示方法、方針

- (1) 美術館、テーマパークのように「テーマ別展示」をする。
- (2) ブースごとの仕切り、境界は、6年生のステキナイス&クッションとイーゼル、パネル、共同制作などを使ってつくる。
- (3) どの学年のどの作品が、どこのブースに展示してあるのかわかるようなプログラムの会場図にする。また、個々の作品の展示場所については、プログラムの会場図に直接書きこんで、各家庭に持ち帰る。
- (4) ICTを活用した展示、参観者が参加できる展示を積極的に取り入れる。
 - ①全校児童の学年を超えたたてわり班の鑑賞ウォークラリー
 - ②作品展来場者の参加型の展示
 - ・巨大スマートボール
 - ・中に入って絵が描ける「おかしの家」
 - ・RICOH紙アプリ「紙アクアリウム」描いた絵を鑑賞するアプリ。読み込んだ絵が画面の中を魚のように自由に泳ぎ回る。絵の泳ぎ方は描き方によって変わる。平成26年度開校20周年記念で設置された体育館舞台スクリーンを使った。子供たちの描いた魚が、PCに取り込まれスクリーンの海を泳いだ。
「紙レーサー」第15回助成金で購入したデジタル液晶テレビを使った。紙に描いた車を、PCに取り込み画面上のコースでレースを行う。ゲームタイプのアプリ。絵の特徴が「速度/加速力/グリップ力/燃料」に置き換えられ、画面上のサーキットでレースをする。4名まで同時対戦できる。
 - ③ICT活用展示
 - ・RICOH紙アプリ（説明上記）
 - ・ARの活用
作品展会場（当校体育館）内に掲示されたARマーカーにあらかじめ専用アプリ（RICOH Clickable Paper）がインストールされたスマホやタブレットをかざすと、子供たちの作品紹介動画が流れるARを活用する。この取り組みは、株式会社リコーの協力を得、動画の撮影は学校出入りのカメラマンが行い、ARの作製は尾池が行う。
- (5) 18：00までの開場時間を生かした「光のファンタジータイム」を行う。
会場内の照明を落とし、6年生のランプシェードのLEDの明かり、舞台スクリーンの紙アクアリウム、会場フロアに設置された「おかしの家」に投影されるプロジェクションマッピングを楽しむ時間を作る。

成果

目指したのはテーマパーク、みんな遊べて、何度でも来たくなる！そんな作品展になった。今回は「海」「おはなし」「ゆめ」「光」などのテーマに分けて作品を展示した。また、八王子市制100周年にちなみ、会場の中心に「八」の形に、6年生の作品を並べ、八王子の8、100周年の100を合い言葉に、共同製作を作った。

2日間で、延べ689名（受付数）の、多くの皆様が来場された。同じ校区の中学校の校長先生、美術科主幹教諭、地域の他校の校長先生や、八王子市教委指導主事、八王子市、町田市、相模原市などの図工の先生方、遠くは千葉県からも来場者があった。

夜18：00まで開場したことで、保護者や地域の方など、より多くの来場者を呼ぶことができた。また、「光のファンタジータイム」のような昼間には無いイベントや、繰り返し遊びたくなる「巨大スマートボール」・入って絵が描ける「おかしの家」・RICOH 紙アプリ「紙アクアリウム」「紙レーザー」などの参加型展示などを設けた。その効果で、昼間に来場した人が、また夜に来場したり、二日間連続で足を運んだり、リピーターも多かった。

会場内には、紙レーザーを親子で楽しむ姿や、就学前の児童が何度も巨大スマートボールで遊ぶ姿が見られた。「光のファンタジータイム」も大好評であった。まさに下柚木小の体育館が、テーマパークさながらに、子供から大人まで楽しめる場となった。学年を越えた子供たちのつながりを深め、学校に対する愛情を深め、地域と学校をつなぐ機会となった。このような取り組みをする以前は、閉館間際の作品展会場は、閑散としたものであったが、今回は、18：00になっても満員で「蛍の光」を会場に流して、お帰り頂くほどであった。ARの取り組みも、学年ごとに1つのマーカーで全ての作品の紹介が見られるメニュー方式を採用したことで、より使いやすくなったと来場した保護者や地域住民から好評を得ることができた。

今後の展望としては、ICT環境の充実と共に、児童のICT活用力を高めたい。併せて保護者や地域住民の学校への関心を高め、郷土愛、愛校心を育てていきたいと考えている。